葛飾図書館
友の会通信

第 29 号
2015年12月10日（木）
葛飾図書館友の会
編集　広報委員会
発行責任者 阿部　京子

ことしも「葛飾図書館友の会ウィーク」を開催
特別講演会や映画会、コンサートなど様々なイベントを行う
週末を中心にボランティア団体も日頃の成果を発表

１１月７日（土）から２３日（月・祝）まで「葛飾図書館友の会ウィーク」が区立中央図書館で開催されました。このウィークは“図書館をひろげる　図書館からひろがる”をテーマに、区内の図書館が広く親しまれ、読書推進や生涯学習、市民交流の場として発展していくことなどを願い、友の会がそのために寄与することを目的にしています。毎年１１月に中央図書館の全面的な協力をいただき、今年は第７回目を迎え、盛りだくさんの企画が展開されました。

期間中は幼児と保護者を対象に「おはなしのへや」でのお話会や紙芝居をはじめ、会議室を会場にした朗読会、落語とリコーダー演奏、マジックショー、手袋人形の講習会や特別講演会、アンコール上映を含めた３回のナイトシアター、映像文学館、読書会、ＣＤコンサートなどバラエティー溢れたさまざまなイベントが開催されました。

このウィークは友の会役員会が実行委員会を結成し、友の会の各委員会による企画や図書館に登録したボランティア団体をはじめ、会員が所属しているグループの日頃の練習や活動成果の発表の場ともなりました。

友の会ウィーク　自称“おしゃべり配達人”がこれまでの人生を熱く語る
特別講演会　《元編集者》畠山森国氏の「人間観察半生記」

１１月８日（日）午後は中央図書館との共催による特別講演会。講師に東新小岩在住の元編集者である畠山森国氏を迎え、編集者としての人生を振り返る「楽しきかな、有り難きかな編集者人生」と題する講演をしていただきました。

総合婦人月刊雑誌を振り出しに、さまざまな書籍出版・編集などに携わった畠山氏。出版とは“新しい商品を作ること”であり、その産みの苦しみが最後は楽しくなる。会社での寝泊りはざら、定時出退社とは別世界の生活を歩んできたこと、喫茶店と赤ちょうちんが貴重な仕事場であったことなどを振り返られました。

これまでの自分の人生を分析すると、「頑固」「偏屈」「ケチ」の３本柱で歩んできたが、忍耐力を養い物事を斜めに見るという視点をもつことができたこと。人生は反省の繰り返しだが、失敗は成長につながること。

「なぜ自分は今ここにいるのか」を時々意識するのも考えるキッカケになること。違いを認め合うのは大切なことなどと、これまでの編集者人生を通して感じたことを作家や文人、著名人との出会いを含め様々な視点から自称「おしゃべり配達人」として熱っぽく語っていただきました。

最後に「縁」を大切にし、人とのネットワークを常に意識していくことの必要性を強調され、参加者からの質問も多かった講演会は予定時間を大幅にオーバーし終了しました。なおこの講演会には区外からも多くの方が見えられ、盛況な講演会となりました。

友の会ウィーク

落語とリコーダー演奏で午後のひと時を…
熱演に会場はしのび笑いや大笑い
耳馴染みの曲になごみ、最後は“ふるさと”を合唱

１１月１４日（土）午後、落語とリコーダー演奏という異色の組み合わせのイベントが開催されました。演ずる皆さんは友の会ウィーク実行委員会からの依頼を快諾。ボランティアで出演していただきました。

落語は６年前、区主催の落語講座で学び、老人ホームに勤務しながら真打の師匠である入船亭扇好氏に教えをうけている視覚障害をおもちの腰医亭もんだ郎さん。

お呼びがあればどこでも高座に上がるという素人落語家もんだ郎さんに“スーダラ節”を出囃子に「野ざらし」と「蜘蛛駕籠」という２話の古典落語をそれぞれ約３０分演じてもらいました。職場での出来事や今話題になっているネタを織り交ぜながらの熱演に会場はしのび笑いや大笑いが起きました。

落語の間には上は白、下は黒の衣装で揃えた女性９名と男性１名の１０名による「リコーダー友の会」の演奏。

３年前にシニア支援センターで開催された講習会の受講生が結成したこの会は、プロの先生の指導を受けています。ボケ防止も兼ねているという日頃の練習の成果として“ようかい体操第一”や“ジュピター”“コンドルはとんでいく”など１１曲を演奏。最後にアンコールとして（？）事前に歌詞カードが配られていた“ふるさと”をリコーダーをバックに来場者が合唱しました。

子どもも含め５０名を上回る皆様が来場されたこの落語と音楽というコラボレーションもなかなかいいものだとの声も聞かれ、２時間のイベントも午後４時に幕が下りました。

友の会ウィーク

第3回映像文学館「詩人・谷川俊太郎」DVD上映と解説
宇宙をさまよう老詩人の魂に　参加者の感動沸く

11 月 15 日（日）午後、詩作、朗読、歌詞制作の分野で数々の賞を得ている「谷川俊太郎」を題材とした DVD 映画（2012 年・紀伊国屋書店制作）が上映され、参加者に大きな感動を与えました。

友の会主催の＜映像文学館＞は、これまで葛飾図書館所蔵の貴重な DVD 伝記映画「宮澤賢治」「種田山頭火」を友の会メンバーの解説付き(右下写真)で上映してきましたが、いずれも充実した内容と迫力ある上映効果で好評を得てきました。今回もまた高齢にもかかわらずエネルギッシュな活躍で知られる詩人像に、参加者全員から「面白かった」というアンケート回答を得ることができました。用意した図書館所蔵の数十冊の展示著作物も半数近くが貸し出されるという好結果を生みました。

１９３１年(昭和６年)、高名な哲学者谷川徹三の長男として生まれ、詩集『二十億光年の孤独』という２０歳のときに書かれたノオトの詩集が、父の友人にして著名な詩人の三好達治の絶賛と推挙によって世に紹介されました。学業へのくびきから逃れた谷川青年はこのときから《詩人》としての第１歩を踏みだし、劇中、詩人自身が歌う「♫　空を超えて　星のかなた　ゆくぞ　アトム」の歌はまた、この詩人の処女詩集『二十億光年の孤独』の夢のつづきでもあるのでしょうか。鋭い感受性を的確な言葉で表現した作品群は６０年にわたる翻訳、劇作、絵本、作詞などジャンルを超えた活躍でレコード大賞、日本翻訳文学賞、毎日芸術賞など、多くの賞をうけながら、公的な賞は辞退するという硬骨漢でも知られています。今日もまた自らの詩を朗読しながら各地を巡り、＜生きていること＞への意味を説きつづけていることでしょう。

友の会ウィーク

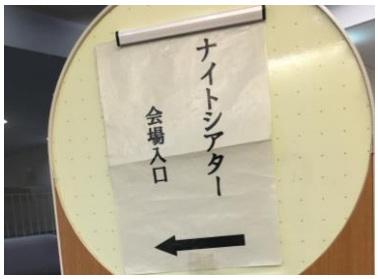
みんなで楽しむ手袋人形の講習会
170ぴきのピンクの「こぶたちゃん」が生まれる！
完成後は歌いながら実演の練習

１１月１２日（木）午前１０時から「こぶた」の手袋人形を作る講習会が友の会児童サービス応援委員会の主催、中央図書館の協力で開催されました。今年は赤ちゃんをおんぶした２名を含め事前に申し込んだ１７名の女性が参加。図書館職員３名の指導でピンクの軍手を利用した“１０匹こぶた”とハンカチ袋の製作にトライ。軍手の１０本の指先にスチロールボールを入れてスタート。フェルトで鼻、両耳や首につけるリボンを作って貼り付けたり、目を差し込んだりの細かい作業を黙々と開始。お互いに教えあったり、職員の親切丁寧な説明に従って、最後に両頬を染めて約１時間でかわいい「こぶた」が完成。次は青いギンガムチェックのハンカチを使って手袋人形を入れる袋の作成にとりかかりました。これは皆さん手馴れたもので、あっという間に完成。

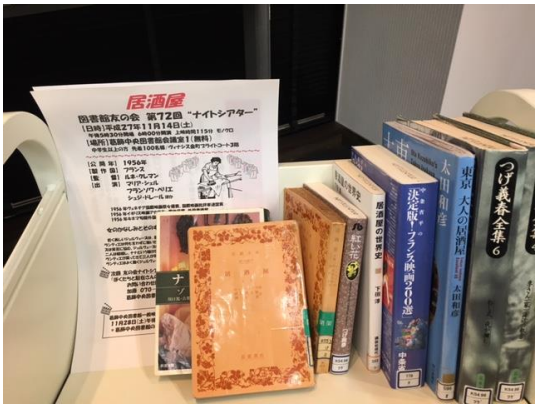
最後は指先にピンクのこぶたが仲良く並んだ手袋を両手に、職員のリードで「１０人のインディアン」をこぶた版にした替え歌『１０匹のこぶた』や数種類の歌にあわせて実演しました。そして全員で歌を唄いながら両手を上下左右に動かしての特訓。コツは子どもたちによく見えるように演ずることと、あまり大きく手を振らないことが大切とか。主催者から今後、人形を活用して欲しいとの挨拶で講習会は１２時に終了しました。

友の会ウィーク

ナイトシアター　今も多くのファンを魅了
アンコール上映２回を含め
「嵐が丘」「居酒屋」「にごりえ」を３週連続上映



葛飾図書館友の会ナイトシアター委員会は、毎月第２土曜日に中央図書館で上映会を開催しており、すっかり定番イベントとして定着しました。今回は友の会ウィークの企画として「平成26年度上映会アンケート」から希望者数の多かった２作品をアンコール上映しました。11月７日(土)「嵐が丘」、11月21日(土)「にごりえ」、そして11月14日(土)は通常のナイトシアターとして「居酒屋」を上映しました。



今、映画はレンタルショップで借りられますし、ネットでも購入できる時代です。しかし、暗くなった会場で大勢の人と息をひそめながら、スクリーンで観る映画は自宅で観るのとは集中力が段違い。上映作品に関する関連図書も展示しているので閲覧、貸出ができるのも図書館のナイトシアターならでは。土曜の夜にぜひふらっと映画を観に中央図書館を訪ねてみてはいかがでしょう。

友の会ウィーク　第３回ＣＤアンコール・コンサート マリア・カラスと三大テノールの饗宴

１１月22日(日)の第43回CD・DVDコンサートは参加者のアンケート結果からのアンコール企画の第３回でしたが、来場者は前回を上回る50人超え。用意したプログラムが足りなくなるほどの期待度（？）の中でスタートしました。第一部は世紀のソプラノ、マリア・カラス。彼女の十八番と言えるオペラ・アリアの「清らかな女神よ」「花から花からへ」「歌に生き、恋に生き」などソプラノの定番から、さらにメゾ・ソプラノの歌まで。全９曲の録音は古いながら唯一無二の歌唱力で、聴衆の皆様に感動を味わっていただけたようです。

第二部はホセ・カレーラス、ルチアーノ・パヴァロッティ、プラシド・ドミンゴというご存じ三大テノールが揃った驚異のイベント。サッカー・ワールド・カップの前夜祭としてローマ大会で初めて集った彼らが、４年後の1994年に再びロサンゼルス大会で歌ったライブ録音。「衣装をつけろ」「誰も寝てはならぬ」などのアリアやアメリカならではのミュージカル・ナンバーなど。アンコールにはテノール三人での「女心の歌」「乾杯の歌」が輝かしく高らかに歌い上げられ、にぎやかなフィナーレになりました。

友の会ウィーク　友の会活動を紹介する資料などを展示

友の会期間中、展示コーナーでは中央図書館の協力をいただき、友の会のこれまでの歴史や写真を利用しての各委員会の活動紹介などをパネル展示しました。

またガラスケースの中にはこの１年間に発行された「友の会通信」とＣＤ・ＤＶＤコンサートのプログラムのカラー原版を陳列しました。なお今回のウィークには紙芝居サークル「飛行船」、花だいこん、あおぞら、おはなしたまごの会、ザ・マジックのボランティア団体の皆さんに参加していただきました。

★★★★★★★★　「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！★★★★★★★★

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第３土曜日の午後１時から４時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は１口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、２７年度年会費とご記入下さい。また１口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では１３０円、ＡＴＭからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はＨＰ（http://katsutomo.jimdo.com/）からもダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先　中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん）℡ 03-3607-9201

色えんぴつ

３月に母が実家で腰を骨折。母からの電話で駆けつけ私は生まれて初めて１１９番へ電話。２階で身動きできない母を救急隊の方が６人がかりで降ろし、運よく診察券を持っていた整形外科病院へ救急搬送。救急車に乗ったのも初体験▼八十歳を越えるまで入院などしたことのなかった母なので、分からぬことだらけだった。母の保険証を見つけるのも一苦労▼それからは手術、入院、退院、リハビリ病院の入院待ちのためショートステイに２週間、リハビリ病院へ転院。そこから膝人工関節手術のため別の病院へ入院。そしてまたリハビリ病院へ。何とか歩けるようになりやっと先月自宅に帰還▼この間８か月、多くの方のお世話になった。近所の方、ケアマネージャーさん、地域包括支援センターの方々、理学療法士さん、看護師さん。介護にはいろいろな制度があるけれど、知らないこと、分からないことだらけ。知識や情報が本当に大切だなと痛感した日々▼ネットや介護制度のパンフレットを読んだりしたけれど、もっとも役立ったのは人に相談することだった。人に話す、相談することで情報だけでなく、優しさや気遣いを与えてもらった。高齢の母の怪我で大変な年だったけれど、多くの方の優しさに接することができた一年でもあった。（広報委員長　阿部）